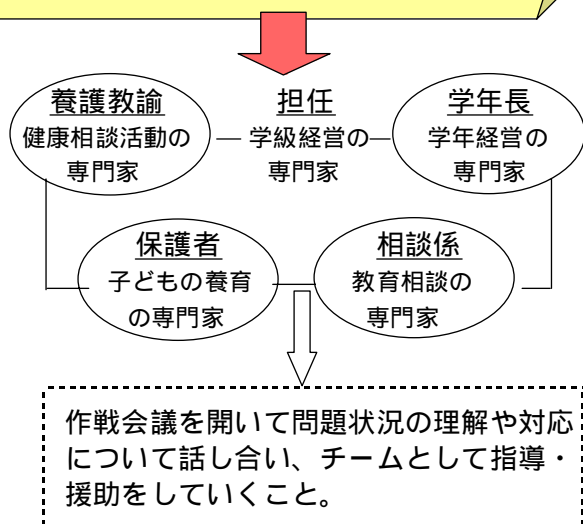


相互（会議型）コンサルテーション

異なる専門性や役割をもつ者（コンサルタント：例えば養護教諭やスクールカウンセラー）が、児童生徒の問題で悩む者（コンサルティ：例えば学級担任や保護者）に対して、より効果的な指導・援助のあり方を見つけられるように支援することをいいます。チームを作ってアセスメントや対応策について話し合うことは、「相互（会議型）コンサルテーション」と呼ばれています。

コンサルテーションの定義

コンサルテーションとは、異なる専門性や役割を持つ者（コンサルタント：例えば養護教諭やスクールカウンセラー）が、児童生徒の問題で悩む者（コンサルティ：例えば学級担任や保護者）に対して、より効果的な指導・援助のあり方を見つけられるように支援することを言う。チームを作ってアセスメントや対応策について話し合うことは、「相互コンサルテーション」と呼ばれる。（石隈 1999）



コンサルテーションの意義

多面的なアセスメントと多様な資源の発見・活用ができる
すべての児童生徒に対する指導・援助の公平性と整合性（一貫性）が確保される責任ある「教育的判断」と指導・援助役割を明確にできる
教師の学び合いや支え合いができる

コンサルテーションの進め方

相互（会議型）コンサルテーションの柱である作戦会議は、典型的には、次のような流れになる。

生徒の指援ニーズをキャッチした教師が教育相談係に連絡する。相談係は日時、所を調整し、作戦会議をもつ

作戦会議の開催で本格的にチーム援助（Cチーム）がスタートする

作戦会議では、教育相談係が司会をし、児童生徒の特性や環境、問題状況についてのアセスメントをする
活用できる資源の把握を図る
具体的な指援策の決定を行う

Cチームの活動は、適宜Sチームでの作戦会議につなげていく。Sチームは、Cチームでの取り組みについて報告を受け大所高所から助言や承認を与える。

学年会等へタイムリーに情報提供する実行段階でのこまめな声かけやフォローアップなどをしていく

Cチームの継続・終結・評価

Cチームは、コラボレーションチームの略。チーム支援の中核となるメンバー（2～6人程度）による機動性の高いチーム。

Sチームは、サポートチームの略。Cチームへの助言やサポートをする。運営委員会や生徒指導委員会のイメージ。

【参考文献】 石隈利紀『学校心理学』，誠信書房，1999

佐藤一也「転勤1年目、相談教師として何をするか」、『月刊学校教育相談』，ほんの森出版，2005 5月号